

調 査 票

調査票

道 民 意 識 調 査

－ご協力のお願い－

日頃から道政の推進にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

北海道では、道民の方々の意向や意識を的確に把握し、道政への企画・立案や施策形成に反映させることを目的として、毎年度、「道民意識調査」を実施しております。

調査対象者の選定にあたりましては、道内にお住まいの18歳以上の方1,500名を無作為に選ばせていただきました。

お忙しいところ大変恐縮ですが、本調査の趣旨をご理解いただき、調査にご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和元年10月

北海道知事 鈴木 直道

- 必ずご本人（封筒の宛名の方）がお答えください。ただし、ご本人の記入が困難な場合は、ご本人の意見などを代理の方がご記入されてもかまいません。
- この調査票に記入された内容については、調査の目的以外に使用することはありません。
- この調査の回答は無記名でお願いしています。集計後の調査票は、責任をもって廃棄処分しますので、個人の秘密は守られ、ご迷惑がかかることはありません。
- 回答は、質問ごとに用意した答えの中から、あなたのお考えに近いものの番号に○印を付けてください。
- 質問によっては回答していただく方が限られる場合がありますので、その場合は、説明に沿ってお答えください。
- 回答は、この調査票の郵送によるほか、スマートフォンからでも回答いただけます。スマートフォンによる回答をご希望される方は、次のQRコードを読み込んでアクセスしてご回答ください。
※スマートフォンで回答された方は郵送による回答は不要です。
- これまでに実施した調査の結果は、北海道のホームページでご覧いただけます。
※インターネット検索で、「道民意識調査」とご検索ください。

QRコード



この調査票に、全ての回答を記載し
同封の返信用封筒（切手不要）に入れ

11月7日（木）までに郵便ポストに投函願います。

※ インターネットによる回答の方も11月7日（木）までにご回答願います。

※ 返信用封筒のあて先は、北海道が調査を委託した昇寿チャート株式会社となっています。

《 問い合わせ先 》 北海道 総合政策部 知事室 広報広聴課 調整グループ
住所 〒060-8588 札幌市中央区北3条西6丁目
電話 011-231-4111（内線 21-361）

調査票番号

1 北海道総合計画について

道では、2016年度からの10年を期間として、北海道がめざす姿と進むべき道すじを明らかにする「北海道総合計画」を策定・推進しているところであり、その推進状況について、定期的に点検・評価を行うこととしています。

この調査は、北海道の住み心地や生活全般の満足度などをお伺いし、その結果を点検・評価に当たっての基礎資料として活用するために実施するものです。

問1 あなたは、現在住んでいる市町村の住み心地について、どのように感じていますか。
次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 住み良い
- 2 どちらかといえば住み良い
- 3 住み良いとも住みにくいともいえない
- 4 どちらかといえば住みにくい
- 5 住みにくい

問2 あなたは、現在の生活にどの程度満足していますか。
次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 満足している
- 2 まあまあ満足している
- 3 満足とも不満ともいえない
- 4 やや不満である
- 5 不満である

問3 あなたは、今後の生活の中で、特にどのようなことを大切にしたいと思いませんか。
次の中から3つまでお選びください。(○は3つまで)

- 1 家庭生活や家族のこと
- 2 個人の趣味を生かすこと
- 3 自治会やボランティアなどの地域での活動に参加すること
- 4 社会的な地位や名誉を得ること
- 5 高い収入を得ること
- 6 職業や仕事のこと
- 7 能力や教養を高めること
- 8 自然とふれあうこと
- 9 健康や病気の予防に関すること
- 10 その他(具体的に: _____)

問4 あなたは、2030年(11年後)頃の北海道がどのような社会であってほしいと思いますか。
次の中から2つまでお選びください。(○は2つまで)

- 1 産業活動が活発で、活力に満ちた社会
- 2 便利で快適な生活環境が整った社会
- 3 思いやりのある社会
- 4 美しい自然に恵まれた社会
- 5 ゆとりのある生活を送ることができる社会
- 6 一人ひとりの個性や能力が活かされる社会
- 7 教育や文化の水準が高い社会
- 8 その他(具体的に: _____)

問5 あなたの家庭や地域の中で、今後、どのようなことが特に大きな問題になると思いますか。

次の中から3つまでお選びください。(○は3つまで)

- 1 老後の生活
- 2 家庭のきずなが弱まること
- 3 地域の連帯感がうすれること
- 4 青少年の教育
- 5 生活の安心、安全をおびやかす犯罪
- 6 交通事故
- 7 地震や台風などの災害
- 8 地球温暖化や資源のリサイクル
- 9 個人情報の流出・プライバシーの侵害
- 10 特になし
- 11 その他(具体的に: _____)

問6 急速な国際化が進む中で、道内の経済・産業の活性化を図るためには、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。(○は3つまで)

- 1 アジア諸国を対象とした経済交流の振興
- 2 空港や港など国際的な交通ネットワーク拠点や物流拠点の整備
- 3 食や観光、健康、環境など、北海道の特性を生かした産業の振興
- 4 バイオテクノロジー（生物工学）やIT（情報関連）産業など先端産業の振興
- 5 産学官の連携
- 6 戦略的な企業誘致や投資環境の整備
- 7 農林水産業の振興
- 8 商店街や小売市場の振興
- 9 建設業の新分野への進出促進
- 10 産業の担い手となる人材育成
- 11 行政サービスの民間開放による事業機会の拡大
- 12 その他（具体的に：)

問7 本格的な人口減少・少子高齢社会の到来に備えて、住みよい地域社会を実現していくために、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。(○は3つまで)

- 1 子どもを産みやすく、育てやすい環境づくり
- 2 高齢者や女性が働きやすい環境づくり
- 3 ボランティアや地域活動を通じた高齢者の社会参画の促進
- 4 高齢者などの健康づくりと介護対策の充実
- 5 いつでも誰でも学ぶことができる生涯学習の場づくり
- 6 高齢者や障がい者が自由に移動したり生活を楽しんだりすることができる都市機能の充実
- 7 災害、犯罪、交通事故などの心配がない安全・安心な生活の確保
- 8 その他（具体的に：)

問8 人と自然が共生し、環境と調和した地域社会を構築していくにあたって、今後、道はどのようなことに力を入れるべきだと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。(○は3つまで)

- 1 自然環境の保全に対する道民意識の高揚
- 2 環境保全に関する知識や意識が豊かな人づくり
- 3 環境保全に配慮した企業活動の促進
- 4 省エネルギーや風力、太陽光、雪氷熱、バイオマスなど新エネルギー資源の利用
- 5 車依存ではなく、徒歩、自転車や公共交通機関の利用促進
- 6 豊かな森林、多様な動植物などの自然の保全・保護
- 7 二酸化炭素等の排出削減による温暖化防止など、地球的規模の環境問題に対する貢献
- 8 大気汚染、水質汚濁などの環境問題の解決
- 9 ごみ（廃棄物）の発生・排出の抑制やリサイクルなどの推進
- 10 その他（具体的に：)

問9 人口減少・高齢社会が進展する中で、地域社会を持続可能なものとしていくためには、地方自治体もまた、住民サービスを持続的に提供することのできる主体でなければならないと考えられます。そのために、今後、道はどのようなことに特に力を入れるべきだと思いますか。

次の中から3つまでお選びください。(○は3つまで)

- 1 住民と行政が地域課題などについて情報を共有すること
- 2 住民や企業が政策をつくる段階から参画できるしくみづくり
- 3 除雪ボランティアや防犯パトロールなど、住民同士が支え合うコミュニティづくり
- 4 市民活動団体（NPO等）や企業などによる公共サービスの提供
- 5 コンパクトで効率的な行政運営への取組
- 6 市町村合併や市町村区域を越えた広域連携の促進
- 7 国及び道から市町村への権限や財源の大幅な移譲
- 8 その他（具体的に：)

2 安心して暮らし続けることのできる地域づくりについて

本道は、全国を上回るスピードで人口減少が進んでおり、地域の暮らしや経済など幅広い分野への影響が懸念されています。

今後の人口減少問題対策の参考にするため、現在お住まいの地域における生活全般などについて、皆さんにおたずねします。

問 10 あなたは、現在住んでいる市町村にこれからも住みたいと思いますか。

次の中から 1つだけ お選びください。(○は1つ)

- 1 できれば今と同じ市町村に住んでいたい
- 2 できれば道内の他の市町村へ移りたい
- 3 できれば北海道以外の所へ移りたい
- 4 よくわからない

問 11 あなたは、食料品などの日々の買い物に満足を感じていますか。

次の中から 1つだけ お選びください。(○は1つ)

- 1 満足している
- 2 やや満足している
- 3 やや不便を感じている
- 4 不便を感じている
- 5 どちらともいえない

※問 12～問 14 については、結婚されている方のみお答えください。

問 12 あなたにとって、理想的な子どもの数は何人ですか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- | | | | |
|---|---------|---|------------------|
| 1 | 子どもはいない | 4 | 3人 |
| 2 | 1人 | 5 | 4人 |
| 3 | 2人 | 6 | 5人以上 (人) |

問 13 あなたは、何人のお子さんを持つおつもりですか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- | | | | |
|---|----------|---|------------------|
| 1 | 子どもは持たない | 4 | 3人 |
| 2 | 1人 | 5 | 4人 |
| 3 | 2人 | 6 | 5人以上 (人) |

問 14 問 13 で選んだ「実際に持つつもりの子どもの数」が、問 12 で選んだ「理想とする子どもの数」に比べて少ない方に伺います。その理由は何ですか。

次の中から、いくつでもお選びください。(○は複数可)

また、その中で最も重要な理由を1つだけ選び◎を付けてください。(◎は1つ)

- | | |
|----|-----------------------------|
| 1 | 子育てや教育にお金がかかりすぎるから |
| 2 | 家が狭いから |
| 3 | 自分の仕事（勤めや家業）に差し支えるから |
| 4 | 子どもがのびのび育つ環境ではないから |
| 5 | 自分や夫婦の生活を大事にしたいから |
| 6 | 高年齢で生むのはいやだから |
| 7 | これ以上、育児の心理的、肉体的負担に耐えられないから |
| 8 | 健康上の理由から |
| 9 | ほしいけれどもできないから |
| 10 | 夫または妻の家事・育児への協力が得られないから |
| 11 | 夫または妻が望まないから |
| 12 | 末子が夫の定年退職までに成人してほしいから |
| 13 | その他 (具体的に：) |

3 環境問題に関する道民の関心・取り組み状況について

北海道の優れた自然環境は、道民のいのちや暮らしの基盤となっているばかりでなく、農林水産業や観光業といった道の産業の基盤となっています。この恵みを将来にわたって享受していくためには、道民ひとり一人の意識や日常生活での取組が重要であり、「北海道環境基本計画」をはじめとする道の環境に関する計画・施策においても道民の環境意識の向上や環境配慮行動の実践を目標として取り入れてきています。

今回、皆さんの環境問題への関心や取組状況などについて改めて把握し、その結果を「環境基本計画」「地球温暖化対策推進計画」「循環型社会形成推進基本計画」「生物多様性保全計画」の見直しに反映させるため、皆さんにおたずねします。

問 15 あなたは、日常生活において環境に配慮した行動をどの程度行っていますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 十分行動している
- 2 少し行動している
- 3 あまり行動していない
- 4 全く行動していない

問 16 あなたは日常生活の中で、地球温暖化防止に向けてどのような取組を行っていますか。
次の中からいくつでもお選びください。(○は複数可)

- 1 テレビの視聴時間の短縮
- 2 使っていない電化製品のプラグをコンセントから抜く
- 3 白熱電球を電球型蛍光灯やLEDに取り替える
- 4 使っていない照明をこまめに消灯する
- 5 使用していないときパソコンの電源を切る
- 6 暖房の設定温度を低くする
- 7 冷房の設定温度を高くする
- 8 冷蔵庫にものを詰め込みすぎない
- 9 食器洗いのお湯の温度を下げる
- 10 天井から床までのカーテンを使用する
- 11 暖房便座の設定温度は控えめにし、使わないときはフタを閉める
- 12 お風呂は間隔をおかずに入り追い炊きをしない
- 13 シャワーの使用時間を短くする
- 14 洗濯するときはまとめて洗う
- 15 お風呂の残り湯を洗濯に再利用する
- 16 ごみの削減、リサイクルを心がける
- 17 車を運転する際は、発車時にはアクセルをふんわり踏み、ゆるやかに発進する
- 18 車を運転する際は、車間距離に余裕をもって、加速・減速の少ない運転をする
- 19 車を運転する際は、停止や減速、下り坂では早めにアクセルから足を離す
- 20 車を運転する際は、カーエアコンの温度・風量をこまめに調整する
- 21 車を運転する際は、アイドリングストップ（駐停車時や発進時の暖機運転をしない）を徹底する
- 22 車を運転する際は、自動車等のタイヤの空気圧をこまめにチェックし適正に保つ
- 23 できるだけ車の利用を控え、公共交通機関や自転車などを利用する
- 24 上記の取組のいくつかは知っているが、特に何も行っていない
- 25 何をやればよいか分からないので、特に何も行っていない
- 26 その他（具体的に： _____)

問 17 あなたは、あなたの家庭からでるごみの減量化について、どのように考え、取り組んでいますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 ごみを減らしたいとは思っていない
- 2 ごみを減らしたいと考えているが、何もしていない
- 3 ごみを減らしたいと考え、ときどき、リサイクルなどに取り組んでいる
- 4 ごみを減らしたいと考え、いつも、リサイクルなどに取り組んでいる

問 18 ごみの減量（リデュース）、再使用（リユース）、再生利用（リサイクル）を併せて「3（スリー）R（アール）」といいます。あなたは、「3（スリー）R（アール）」という言葉を知っていますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 初めて聞いた
- 2 聞いたことはあるが、内容はよく知らない
- 3 聞いたことがあり、内容もある程度知っている
- 4 聞いたことがあり、内容もよく知っている

問 19 あなたは「生物多様性」という言葉をどの程度知っていますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 言葉の意味を知っている
- 2 言葉の意味をある程度知っている
- 3 言葉の意味は知らないが、言葉は聞いたことがある
- 4 言葉の意味も知らないし、聞いたこともない

4 北海道における再犯防止の取組について

検挙者の48.7%を再犯者が占める状況から、国民が安全・安心に暮らすことができる社会を実現するため、平成28年12月に「再犯の防止等の推進に関する法律」が制定され、平成29年12月には、法に基づく「再犯防止推進計画」が策定されました。

法や計画においては、国・地方公共団体・民間の団体等が連携協力し、再犯の防止等に関する施策を総合的に推進することが求められていることから、道においても再犯防止に係る道民の意識調査をすることとしました。

この調査では、「犯罪や非行をした人たち」を

- ・過去に罪を犯し刑務所から出所した人
- ・過去に非行をし、保護観察を受けたことがある少年、または現在も保護観察を受けている少年

に該当する人たちとしてお答えください。

問 20 全国では毎年2万人以上が刑務所等から出所して社会に復帰しています。あなたはこのような状況から、犯罪や非行をした人たちが自分の身近にいるかもしれないと思いますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 そう思う
- 2 そうは思わない
- 3 わからない

問 21 犯罪や非行をした人たちを立ち直らせ、再犯を防止するためには、具体的にどのようなことが必要だと思いますか。

次の中からいくつでもお選びください。(○は複数可)

- 1 保護観察官(犯罪や非行をした人たちの再犯防止に従事する国家公務員)や保護司(犯罪や非行をした人たちの立ち直りを地域で支える民間のボランティア)による一人ひとりの問題性に応じたきめ細かな指導を充実強化する
- 2 住居と仕事を確保して安定した生活基盤を築かせる
- 3 被害者の心情を理解させる
- 4 犯罪や非行を地域の問題として捉え地域ぐるみで立ち直りを援助する
- 5 その他(具体的に: _____)
- 6 特にない
- 7 わからない

問 22 犯罪や非行をした人たちを立ち直らせ、再犯を防止するためには、企業や事業主は、過去に犯罪や非行をした人たちを積極的に雇用すべきだと思いますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 そう思う
- 2 そうは思わない
- 3 わからない

問 23 あなたは、犯罪や非行をした人たちの立ち直りに協力したいと思いますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 思う
- 2 どちらかと言えば思う
- 3 どちらかと言えば思わない
- 4 思わない
- 5 わからない

問 24 ※「問 23」で選択肢 3 または 4 を選んだ方のみお答えください。

あなたが、犯罪や非行をした人たちの立ち直りに協力したいと思わない理由は何ですか。

次の中からいくつでもお選びください。(○は複数可)

- 1 自分に何ができるかわからない
- 2 犯罪に巻き込まれそうで怖い
- 3 犯罪や非行をした人たちと関わりたくない
- 4 家族に反対される
- 5 犯罪や非行をした人たちの背景・原因がわからない
- 6 活動に参加する時間がとれない
- 7 その他 (具体的に：)
- 8 考えたことがない

5 犯罪のない安全で安心な地域づくりについて

この調査は、道が取り組んでいる犯罪のない安全で安心な地域づくりの推進方針に反映させることを目的に、皆さんが不安を感じる様々な犯罪に対する意識や防犯対策、自分たちが生活している地域での自主防犯活動などについておたずねするものです。

問 25 あなたは、犯罪被害に遭うのではないかと不安を感じることがありますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 よくある
- 2 たまにある
- 3 ほとんどない
- 4 全くない

問 26 ※「問 25」で選択肢 1 または 2 を選んだ方のみお答えください。

あなたが不安を感じる要因について、次の中からいくつでもお選びください。(○は複数可)

- 1 身近なところで事件が起きているから
- 2 街灯の設置がないため（または設置数が少ないため）、夜の外出が不安だから
- 3 生活エリア内に防犯カメラがないから（または設置数が少ないから）
- 4 テレビや新聞などで事件がよく取り上げられているから
- 5 地域のつながりが弱く、近所の住民の顔をほとんど知らないから
- 6 わからない
- 7 その他（具体的に： _____）

問 27 あなたは、地域で起きている犯罪をどのような手段で知りますか。

次の中からいくつでもお選びください。(○は複数可)

- 1 テレビ・ラジオ・新聞などといったマスコミからの情報
- 2 インターネットによる情報
- 3 警察からの情報
- 4 防犯講習会・研修会を通じた情報
- 5 学校からの情報
- 6 自治体からの情報
- 7 町内会からの情報
- 8 地域住民からの情報
- 9 情報を入手する手段がない
- 10 その他（具体的に： _____）

問 28 あなたの居住地域で行われているここ数年の防犯活動の状況について、どのように感じていますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 活発になった
- 2 やや活発になった
- 3 今までと変わらない
- 4 やや低調になった
- 5 低調になった
- 6 わからない

問 29 あなたは、地域を犯罪被害から守るために、どのような団体での活動に参加（過去に参加していたでも可）していますか。

次の中からいくつでもお選びください。(○は複数可)

- 1 町内会
- 2 防犯協会
- 3 防犯を目的とした協議会等
(自治体・警察、その他業界団体等で構成されているもの)
- 4 学校・PTA
- 5 職場
- 6 防犯パトロール隊
(上記選択肢1～5以外のもの)
- 7 団体での活動に参加していない(または参加したことがない)
- 8 その他(具体的に:)

問 30 ※「問 29」で選択肢 7 を選んだ方のみお答えください。

あなたが、地域を犯罪被害から守るため、団体での活動に参加していない(または参加したことがない)理由について、次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 参加したいが地域で活動している団体を知らない
- 2 参加したいが活動団体の窓口が分からない
- 3 参加したいが仕事をしているため時間がとれない
- 4 参加したいが子育てや介護等のため時間がない
- 5 参加する気持ちがない
- 6 その他(具体的に:)

問31 あなたは、地域を犯罪被害から守るために、どのような活動や対策が必要だと思いますか。
次の中からいくつでもお選びください。(○は複数可)

- 1 街灯等の設置
- 2 防犯カメラの設置
- 3 犯罪被害に強い錠やガラス等の設置
- 4 犯罪情勢や防犯対策に関する情報提供
- 5 防犯講習会・研修会の開催
- 6 防犯を目的とした街頭啓発
- 7 防犯リーフレット等の配布
- 8 防犯パトロール
- 9 防犯ボランティアリーダー等の人材育成
- 10 登下校時の児童の見守り活動
- 11 隣近所との見守り、声掛け
- 12 落書き消しなどの環境美化
- 13 違法駐車排除
- 14 交番の増設や警察官によるパトロール強化
- 15 特にない
- 16 その他（具体的に： _____)

6 食の安全・安心について

道では平成17年(2005年)に、消費者の方々に信頼される安全で安心な食品の生産及び供給に資することを目的として、「北海道食の安全・安心条例」を制定し、食の安全・安心に関連する施策の効果的な推進に努めています。

人口減少など社会経済構造の変化をはじめ、日EU・EPAやTPP11の発効といった国際化の進展など、食の安全・安心をめぐる情勢が大きく変化していることを踏まえ、今後の施策に役立てるため、皆さんにおたずねします。

問32 道では、道民の皆様の食の安全・安心に対する理解が深まるよう、「食育」を推進しています。

「食育」の目的は、食に関する知識と食を選択する力を習得し、健全な食生活を実践することができる豊かな人間性を育むこととされていますが、あなたはこの「食育」に関心がありますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 関心がある
- 2 どちらかといえば関心がある
- 3 どちらかといえば関心がない
- 4 関心がない
- 5 わからない

問 33 「食品ロス」とは、本来は食べられるにもかかわらず、食べ残しや期限切れなどにより捨てられる食品のことをいいますが、食べ物を大切にするという食育の観点からも、食品ロスを削減することは大切です。

道では、平成 28 年（2016 年）から食品ロスを削減する取組「どさんこ愛食食べきり運動」を展開しています。あなたは、「食品ロス」を減らすために、家庭や外食の場で普段から取り組んでいることはありますか。

取り組んでいる場合は次の 1 から 12 の中で当てはまるものをいくつでもお選びください。（○は複数可）

また、取り組んでいない場合は 13 または 14 から 1 つだけお選びください。（○は 1 つ）

[取り組んでいる場合]（当てはまるものをすべてお選びください）

- 1 食べきれる量を購入する
- 2 冷凍保存を活用する
- 3 料理を作りすぎない
- 4 冷蔵庫等の食事の在庫をこまめに確認する
- 5 残さず食べる
- 6 賞味期限が過ぎてもすぐ捨てずに、自分で食べられるか判断する
- 7 食べきれなかった料理を他の料理にリメイクしている
- 8 飲食店等で注文しすぎない
- 9 宴会時には、料理を食べきるようにしている
- 10 苦手な料理や量が多いときは食べられる人に食べてもらう
- 11 お店に了解をもらって、残った料理を持ち帰っている
- 12 その他（具体的に： _____)

[取り組んでいない場合]（1 つだけお選びください）

- 13 「食品ロス」について知っているが、取り組んでいることはない
- 14 「食品ロス」について知らなく、取り組んでいることはない

日頃、食卓に上っている農作物等のほとんどは、新たな品種を開発する「育種」によって産み出されています。

古くは自然に発生する突然変異によって形質が変化したものを選抜するといった手法のほか、異なる品種をかけ合わせる交配により育種が行われてきました。

ここ数十年では、放射線照射や薬剤による人為的な突然変異の誘発、さらに遺伝子組換え技術といった育種技術も利用されているほか、最近ではゲノム編集技術による新品种の研究開発が進められています。

問 34 あなたは、遺伝子組換え作物※及びそれを使った食品の安全性について、どのように思われますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

※ 遺伝子組換え作物

目的とする遺伝子を別の生物から導入する遺伝子組換え技術を利用して作出された作物（例：除草剤に耐性のある作物、害虫に抵抗性のある作物）

- 1 不安に思う
- 2 やや不安に思う
- 3 あまり不安に思わない
- 4 不安に思わない
- 5 わからない

問 35 あなたは、遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響について、どのように思われますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

- 1 不安に思う
- 2 やや不安に思う
- 3 あまり不安に思わない
- 4 不安に思わない
- 5 わからない

問 36 あなたは、遺伝子組換え技術の試験研究について、どのように思われますか。

「推進すべき」と思われる方は次の1から7の中から当てはまるものをいくつでもお選びください。(○は複数可)

また、それ以外の方は8または9から1つだけお選びください。(○は1つ)

〔「推進すべき」と思われる方〕(当てはまるものをすべてお選びください)

- 1 密閉された温室などの中に限って、試験研究を推進すべき
- 2 田畑など屋外での栽培について、試験研究を推進すべき
- 3 作物の栽培における生産性の向上や省力化について、試験研究を推進すべき
- 4 健康によい成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき
- 5 花や樹木など食品以外の作物について、試験研究を推進すべき
- 6 医薬品や工業製品などの利用について、試験研究を推進すべき
- 7 将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき

〔それ以外の方〕(1つだけお選びください)

- 8 試験研究は全面的に禁止すべき
- 9 その他(具体的に：)

問 37 近年、新たな育種技術として、ゲノム編集技術※の研究開発が進められています。

あなたは、ゲノム編集技術を利用した農作物等の研究開発や食品の流通について、どのように思いますか。

次の中から1つだけお選びください。(○は1つ)

※ ゲノム編集技術

DNAを切断する酵素を用いて、外部から遺伝子の挿入や、既存の遺伝子の欠失、塩基配列の置換など、ゲノムの特定の部位を意図的に改変することが可能な技術で、別の生物からの遺伝子を導入する遺伝子組換え技術と異なり、最終的に自然界で起こり得る変異と同様のものがある。

〔例：食中毒の原因となるソラニンが作られないようにしたジャガイモ
血圧上昇抑制効果などがあるGABAを多く含むトマト〕

- 1 不安に思う
- 2 やや不安に思う
- 3 あまり不安に思わない
- 4 不安に思わない
- 5 わからない

問 38 あなたは、ゲノム編集技術の試験研究について、どのように思われますか。

「推進すべき」と思われる方は次の1から7の中から当てはまるものをいくつでもお選びください。(○は複数可)

また、それ以外の方は8または9から1つだけお選びください。(○は1つ)

[「推進すべき」と思われる方] (当てはまるものをすべてお選びください)

- 1 密閉された温室などの中に限って、試験研究を推進すべき
- 2 田畑など屋外での栽培について、試験研究を推進すべき
- 3 作物の栽培における生産性の向上や省力化について、試験研究を推進すべき
- 4 健康によい成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物について、試験研究を推進すべき
- 5 花や樹木など食品以外の作物について、試験研究を推進すべき
- 6 医薬品や工業製品などの利用について、試験研究を推進すべき
- 7 将来の食料不足の解決のために、試験研究を推進すべき

[それ以外の方] (1つだけお選びください)

- 8 試験研究は全面的に禁止すべき
- 9 その他(具体的に: _____)

最後に、あなたご自身のことについてお聞きします。

おたずねした結果を統計的に分析するため、あなたご自身のことについて、教えてください。質問項目は個人の情報を特定する内容ではありませんので、ご協力願います。

I あなたの性別をお答えください。

- | | |
|------|------|
| 1 男性 | 2 女性 |
|------|------|

II あなたは現在、おいくつですか。

- | | | |
|-----------|-----------|-----------|
| 1 18～29 歳 | 3 40～49 歳 | 5 60～69 歳 |
| 2 30～39 歳 | 4 50～59 歳 | 6 70 歳以上 |

III あなたの主な職種は何ですか。

次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1 自営業 (農林漁業及びその家族従事者) |
| 2 自営業 (商工サービス業及びその家族従事者) |
| 3 自由業 (専門的な知識や才能に基づく職業への従事者で、雇用関係から独立した職業分野 (開業医、弁護士、芸術家など)) |
| 4 事務職系 (一般事務、教員、看護師、技術者など) |
| 5 労務職系 (技能員、販売員、セールス外交員など) |
| 6 主婦 |
| 7 学生 |
| 8 無職 |
| 9 その他 (具体的に: _____) |

IV あなたのお住まいの市町村はどの地域になりますか。

次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- | |
|--|
| 1 道央広域連携地域 (石狩振興局、空知総合振興局、後志総合振興局、胆振総合振興局、日高振興局) |
| 2 道南連携地域 (渡島総合振興局、檜山振興局) |
| 3 道北連携地域 (上川総合振興局、留萌振興局、宗谷総合振興局) |
| 4 オホーツク連携地域 (オホーツク総合振興局) |
| 5 十勝連携地域 (十勝総合振興局) |
| 6 釧路・根室連携地域 (釧路総合振興局、根室振興局) |

V あなたは、今の市町村に住むようになって何年になりますか。

次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- | | | | | | |
|---|--------|---|----------|---|-------|
| 1 | 1年未満 | 3 | 5～10年未満 | 5 | 20年以上 |
| 2 | 1～5年未満 | 4 | 10～20年未満 | | |

VI あなたのお住まいの地域は、次のどれにあたりますか。

次の中から1つだけ選んでください。(○は1つ)

- | | |
|---|------------|
| 1 | 札幌市 |
| 2 | 人口10万人以上の市 |
| 3 | 人口10万人未満の市 |
| 4 | 町村 |

VII この調査に対するご感想、道政に対するご意見などございましたら、ご自由にお書きください。

今後の参考にさせていただきます。(自由記載)

↑この線で三つ折りして
返信用封筒に入れてください

↑この線で三つ折りして
返信用封筒に入れてください

【ご協力ありがとうございました】

三つ折りにし、同封の返信用封筒に入れて

11月7日（木）までに

郵便ポストに投函してください。（切手不要）

※スマートフォンで回答された方は郵送による回答は不要です

